

おむすび型平面形状の集合が中庭を取り巻く

所在地:岐阜県
 設計・総合:宇野亨/CAN
 構造:名和研二/なわけんじム
 施工:丸長ホーム
 構造/規模:木造軸組構法/平屋建
 面積:(敷地)423.1㎡
 (1階)71.2㎡
 (延床)71.2㎡
 竣工:2010年7月

屋根の構成:ガルバリウム鋼板t0.4
 堅ハゼ葺き
 アスファルトルーフィング
 構造用合板t12
 屋根勾配(5/100以上)木組み
 構造用合板t24
 グラスウール10kg/t100
 天井の構成:PBt9.5の上ビニルクロス
 野縁36×40@455



ルーム1からキッチンと中庭を見る

ルーム2から左側にルーム3越しに寝室であるルーム4を
 右側にエントランスホール越しにダイニングであるルーム1を見る



南西側からの俯瞰建物は中庭に開いている



- 1.おむすび型をかたちづくる木製のかまぼこはり。
- 2.仮組されたはり部材。
- 3.基礎工事。断熱材(スチレンボード)を鉄筋で支える方法で型枠を作っており、一部断熱材としてそのまま使用されている。
- 4.支柱の組み立て工事。450mm間隔で柱が配置されている。

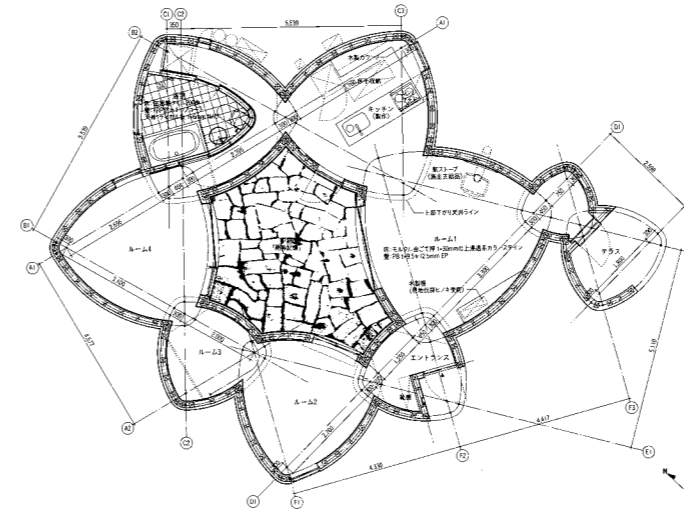
住宅について

岐阜県の山間部に位置する彫刻家の週末住宅である。おむすび型のユニットが中庭を囲むような空間構成が特徴である。おむすび型の頂部で連結されて、折れ曲がりながらループする空間は、個々の空間の独立性と、回遊性が高いワンルームという異なる性格を両立させる。この両義性が住宅としての機能と、中庭に敷き詰められた作品「雨の記憶」のギャラリーという機能を併せもつ建築を実現する。また、周辺の豊かな自然環境は、昼夜で表情を一変させる。無限の闇に包まれた外部を感じさせない閉鎖的な外観と、中庭に大きく開かれた内部空間の対比により、住み手の安心感と作品に対峙する静寂な空間の創出を試みた。

屋根と合板について

本物件は、曲面の壁を持った三角おむすび型のユニットが複数連続して配置された木造平屋の建物である。屋根構面については、はりに厚さ24mmの構造用合板をくぎ打ちし水平剛性を確保した。曲面壁については全面に厚さ9mmの構造用合板を張っており、曲率が緩い箇所は構造耐力壁として評価し、合板を曲壁なりに押し当ててくぎ打ちすることで水平力を負担させている。一方、曲率がきつい箇所(三角おむすびの頂点付近)は施工の難易度が高いためあえて構造耐力壁として評価しない下地壁とした。具体的には細く切った構造用合板により曲面を形成させている。曲率の度合いに応じた施工性を考慮し構造用合板の構造的役割をかえた建物である。

平面図・1階(1/200)



断面詳細図(1/100)

